

2021年8月

定期巡回随時対応型訪問介護看護事業所かざぐるま

① 利用状況報告

1月→37人 2月→35人 3月→35人 4月→35人
5月→34人 6月→38人 7月→35人（地域の方 1名）

7月末現在

要介護1⇒15人

要介護2⇒11人

要介護3⇒8人

要介護4⇒1人

要介護5⇒0人

利用者平均要介護度 1.86

② 事例報告

【基本情報】

A氏 94歳 女性

【既往】

左乳がん、心臓弁膜症、骨粗鬆症

【家族構成】

長男夫婦、孫と同居。キーパーソンは孫。

【利用開始の流れ】

ご自宅で転倒し、右大腿骨転子部骨折し、入院。

主介護者の孫がアパートへ引っ越しし、介護力が不足したため、自宅へ帰ることが難しく、高齢者住宅へ入居となる。

【経過】

利用当初、物忘れがあるということ、環境が変わったことでの混乱がないかご家族は心配されていた。元々、看護師として働いておられ責任感が強く、家族に迷惑をかけたくないという性格もあり、自分で出来ることはご自分で出来るような環境を整えることにした。

排泄について、排泄動作自体は自分で出来るが、場所が分からないことあり。トイレの扉に貼り紙をしたところ、以降はご自分でトイレに行くことが出来ている。

生活されていく中で、デイサービスから帰られると、濡れたタオル等を干しておられることが続いていた。「乾かさなけんけん」とおっしゃられ、濡れた物を迷惑をかけずに

どうにかしようと思ってされた行動ではないか、と考えた。しかし、清潔・不清潔の区別はつきにくいことも同時に分かった。そこで、デイサービスから帰られたら洗濯物を事務所で管理し、定期訪問時に洗濯をすることにケア内容を変更。すると、自分でデイサービス用のカバンを探し「タオルがないわ～。どこにやったかと思って…」と、廊下に出て来られたり、事務所まで来られることが続いた。

本人の性格も含め、洗濯物に対する心配を軽減する方法を検討。週3回出かけられるデイサービスから帰られたら、すぐに洗濯物を回し、本人のところへ持っていくことにした。

ケアを変更してみると、廊下へ出たり、事務所に来られたりすることはなくなり、洗濯物を持っていくと率先して干して下さるようになった。タオルや靴下等も、ベットの柵を使用して広げて干すなど、自分で考えながら工夫し取り組まれている。

この事例から、その人の病状はもちろん、性格も把握したうえで、その人の心配事を少しでも解消し安心して暮らしてもらえるかを考えることが出来た。訪問回数を増やし、本人の思いや、本人が出来ることはないかを見つけていき、ケアマネにも相談し、ケアマネのプラン変更も行っていったケースとなった。

かざぐるまの強みである、訪問回数や訪問時間を柔軟に変更出来たことが、自分で出来る事を続けてもらいながら生活していくこと、意欲の向上に繋がったと感じる。

ADLだけではなく、洗濯や掃除などもIADLに繋がるきっかけになると改めて感じた。専門職としてどう考え、根拠を持ってケアに展開していくか、今後も職場内で検討し実践していきたい。

③ 残されている課題について

- ・基本不規則勤務の職場であり、朝礼や終礼等が出来ず、日々情報の伝達・共有の難しさを感じています。

④ 質の向上に向けて

- ・職場会議では、事例を大切に、「その人の暮らしをどう支えるか」という視点で意見交換を行っています。その中で、知らなかったたくさんの情報を共有することが出来、同じ目的のもと、ケアを繋げていけるように取り組んでいます。
- ・タブレットを使用し、日々のところでカンファレンスが行えるように計画をたてて行っています。ちょっとした本人の言葉、いやに感じられたこと等にアンテナを持って、話をしています。また、他事業所とも同じように、週に1回ミーティングを定期開催しています。ケアやその人に対して感じていることを共有し、連携に努めています。
- ・月1回の学習会の開催は継続して行っています。
- ・職場目標について、項目ごとに担当職員を決め取り組んでいます。利用者の為に、みんなできりきれるよう努めています。

⑤ 新型コロナウイルス感染症について

- ・新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、高齢者住宅での面会制限が続いています。オンライン面会等を取り入れています。入居者も外に出れない、家族に会えないことでの不安等も感じられたり、ご家族もどんな生活をしているか心配されている声も耳にします。ご家族が来所された際は普段の様子をお伝えしたり、電話連絡をこちらからもすることで、様子をお伝えするようにしています。
- ・手指消毒やマスクの着用、仕切り版の利用、手すり等の共有部分の消毒等、日々予防対策に努めています。

⑥ 苦情、アクシデント等

・車両事故

訪問先の庭で車の方向転換をする際、石垣に車をぶつけてしまったアクシデントありました。職場での振り返りに加え、安全運転委員会からのアドバイスから、前進後退ともに進行方向の確認不足はもちろん、バックをする際の確認ルールを決めることの振り返りを行っています。